

特集

第16回 SRお客様交流会

2013年2月15日(金) 大田区産業プラザPiO

SRお客様交流会は、SRユーザーがその具体的な活用法を通じ、安全運転効果や燃費向上について意見交換を行うものです。16回目を迎えた本会は、89社153名という多数のお客様にご参加いただき、最新の事例や、SR関連の新製品「FuelCompass」、ドコモ・システムズ株式会社との事業提携によるクラウド型位置情報サービスの紹介(P.3参照)など盛りだくさんの内容となりました。



個別指導データによる対話式教育を重ね、SRとの連携で事故0を目指す

ダイキン工業株式会社 サービス本部 東日本サービス部
 多摩サービスステーション 田倉 一樹 様

所在地：大阪市北区中崎西 2-4-12 梅田センタービル
 設立：1934年2月11日
 代表者：代表取締役 会長兼CEO 井上 礼之
 社長兼COO 十河 政則

事業内容：空調事業、化学事業、油機・特機・電子システム事業
 SR導入：SRPocket (146台)
 DVRminiII (20台)
 東日本サービス部にて導入

ダイキン工業株式会社 様

☑ 下半期、事故ゼロ継続中!!

☑ SR運転診断得点平均83点継続中

※導入当初の平均点40点前後から約40点UP

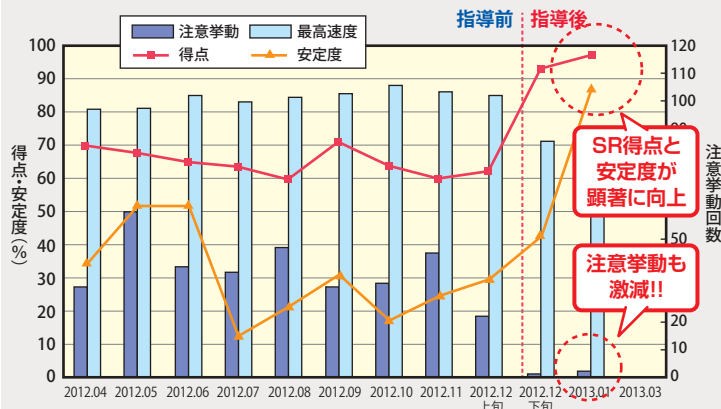
客観的なデータに基づく 「第三者の目線」としてのSR

ダイキン工業株式会社は、全国56拠点にサービスステーション(SS)を持ち、24時間365日高品位なサービスをご提供できる体制をとっています。「第三者の目線」として科学的分析に基づく安全運転指導を行うためサービス本部 東日本サービス部で、SR導入を決定。導入後、管理者がドライバーにSRデータ解析結果と「自己評価を記載した運行日誌」による対話形式の指導を実施。SR導入により客観的データによる運転の振り返りが可能になり、その質が大幅に向上しました。

運用にあたり「①SR定着～システムを理解させ運転自己評価」「②運転改善～安全運転技能向上」の2つのステップを展開。①では、7～9月の繁忙期にSR得点優秀者表彰制度「セイフティドライバーグランプリ(SDGP)」を実施。各ドライバーが自己評価を行い、まずは運転評価得点40点以上を目指しました。その結果、7～9月の運転評価得点は月平均62.2点となり目標をクリア。②では目標を80点以上とし、それ以下や危険挙動のあるSSには、レポート提出や対話による指導の他、各SSに「SS安全推進委員」を置き、それら委員を教育する勉強会を開催しました。

80点以上を継続させる 目標設定と社員全員の努力

さらに安全運転技能改善を目指し、「80点以上を継続化させ、高得点を継続・安定化させる」「危険挙動の回数ゼロ」「100kmあたりの注意挙動を5回以下」の3つの目標を掲げ、全社員で取り組みました。比較的点数が低く、注意挙動の多いドライバーには、個別データと対話による指導。安定度確認には月ごとに平均点の±5点以内に抑えるようにし、下回るドライバーには、SRデータを基に運転状況や自分のコンディションを振り返るようにしました。さらに新人の運転兼務社員には、データ・テックによるSR講習会を設けています。今後のSR活用法としてドライバーのバイオリズムとSRデータを関連づけた指導方法にも注目しています。



▲ 指導前後では、SR得点と安定度が向上し、注意挙動が激減。ドライバーによると、指導後「スピードを確実に落とすこと」で急な操作(急加速、急制動)がなくなり、その結果としてスムーズな運転ができるようになったという



▲ 勉強会では、SRデータの解析力と指導力の向上など安全推進委員の育成を行う。安全推進委員が各SSにノウハウを持ち帰り、ドライバーの指導にあたる



▶ 新人の運転兼務社員が単独運転するまでに行われる「安全運転道場」

▶ 月ごとに「平均速度」「最高速度」「診断得点」をグラフ化し、日々の運転の安定度を確認する





物流業界での生き残りをかけて SRによる安全・環境・人材育成に注力

有限会社 ヤマコン
代表取締役 山田 享 様

所在地：愛知県小牧市大字三ツ淵718
設立：1992年9月1日
代表者：代表取締役 山田 享
車両台数：52両

事業内容：一般貨物自動車運送業、貨物運送取扱事業、倉庫業、荷役作業請負および梱包・開梱業以上に附帯するサービス
SR導入：SRVideo (38台)、SRDigitacho+ (8台)、SRVDigitacho (5台)を導入

有限会社 ヤマコン 様

- ✓ 保険料の実質割引率70%達成
- ✓ SRを通して安全と環境への意識が向上

1台3役で実践的な機能を搭載、 誰でも簡単に使えるSR

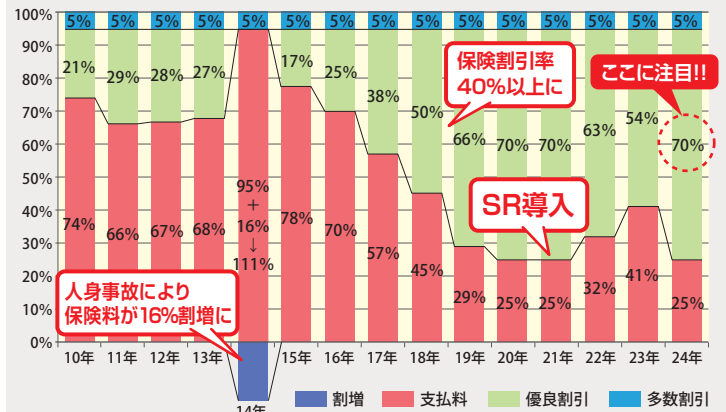
2009年7月より『SRVideo』と『SRDigitacho+』を全車両に導入、現在は51両の営業車に搭載しています。導入の決め手は「**運転席での作業がほとんどなく、ドライブレコーダ、カメラ、デジタコの3役をメディア1枚でこなすこと**」、また注意・危険挙動の映像と地図がリンクしているので、ドライバーにわかりやすく指導ができることです。日々の業務に追われ、SR専任担当者をつけられない弊社にとって、「導入後の手間が削減できること」も大きな要因です。

グループごとに 毎月の目標達成を確認し合う

ドライバーは、帰車後の対面点呼時にSRによる運転診断を行い、得点の低い場合には同乗指導や面談を行う運用ルールを決めました。SRを導入した3カ月後、大きな事故が発生しました。片側3車線道路の中央車線走行時、信号待ちの乗用車に追突。ドライバーの睡眠不足が原因であり、事故の1週間前にミラーをこす事故を起こしていました。このことを反省点とし、点呼時に睡眠時間の確認を徹底し、軽微な事故を起こしたり、**SR得点が低いドライバーの実車映像をチェックし、事故の兆候を察知する**ようにしました。毎月の安全会議を開催。前月の事故報告やSR映像によるKYT、事故原因をグループごとに考え、その分析結果の発表を行います。グループごとに目標を決め、四半期ごとに取り組み結果の確認や見直しもを行います。このような取り組みが功を奏し、**Gマークやグリーン経営などの認証を取得**できました。SR導入効果の1つが「保険料の割引効果」です。2002年にドライバーによる人身事故のため保険料が割り増しとなりました(グラフ)。それをきっかけに社内で安全意識が高まり、6年後には優良割引率が70%を達成。保険料の削減分で2009年からSRを導入でき、昨年度も70%でした。

安全と環境面を両立し、 SRで“選ばれる物流会社”を目指す

今後の目標は、「①保険割引率の維持継続」「②全員参加の会社運営」「③経営者目線の管理者育成」「④荷主に指名される事業所を目指す」——の4つです。①は、保険割引率40%以上を維持できなければ赤字となり、設備投資や人件費の削減など会社経営に大きく関わります。②では、運行管理者基礎講習修了者が22名、同資格取得者は現在12名におよびます。1人でも多くのドライバーを管理者に養成し、個々が“経営者目線の管理者”として日々の業務に取り組み、安全・環境面で会社が掲げる高い目標を社員全員で達成することを期待しています。物流業界での生き残りをかけ、**荷主にパートナーとして選ばれる物流会社を目指す**ためにも、SRは必要不可欠なツールです。



▲ 保険料の割引・支払い推移。2002年を起点とし順調に減少し、現在優良割引率70%という高い割引率を誇る。同社の試算によると40%以上の継続が命題だという

ドライバー自身による取り込み



管理者との対面点呼



▲ 自分の運転に自覚と責任を持たせるため、必ずドライバー自身が運行データを取り込む。当初はPC未経験者が多く、管理者がつきっきりだったが、現在ではすべてのドライバーが運行データの取り込みができるという



▲ 毎月開催される安全会議。特別に用意された実車映像を教材にKYTを行う。何度も繰り返すことで、運転技術向上と本質的な安全意識に結びつくという



▲ 安全性優良事業者認定(Gマーク)、グリーン経営認証、エコドライブマスター設置事業所証明書などを取得した



◀ 2012年より大型天然ガストラック車両を導入。外観に環境メッセージを込めたラッピングを施し、小牧と大阪間を毎日往復している(中部地区で大型天然ガストラックを採用する運送会社はヤマコンのみ)

NEW SRユーザーに朗報!

燃料情報の手書きの煩わしさを一挙解消!!

FuelCompass フューエルコンパス

データ・テックは、SRお客様交流会にて燃料給油情報と燃料消費情報を帳票に自動記入するSR拡張ユニット『FuelCompass』の新製品発表を行った。

- 面倒な燃料情報を自動で記録し、出力できる
- SR拡張ユニットが新登場

『FuelCompass』は、車両の燃料メーターから取得した燃料情報をFuelCompassユニットを介し、『SRPocket』『SRVDigitacho』などのSR車載器に取得し出力が可能だ。SR搭載車であれば、メーカーや車種に依存せずほとんどの車両*で対応。FuelCompassを導入することで、SRユーザーは運行ごとやドライバーごとの給油量と消費量といったデータを帳票(運輸日報)に自動的に出力できる。これにより手書きでの給油量集計の手間を省き、記載ミスやもれなどドライバーの人為的なミスも解消。またSRの安全面での指導に加え、エコドライブや省エネといった環境面での指導・教育にも大いに役立つ。

※ 最新型車両と外車は現在確認中

- 実証実験で証明した
- FuelCompassの精度の高さ

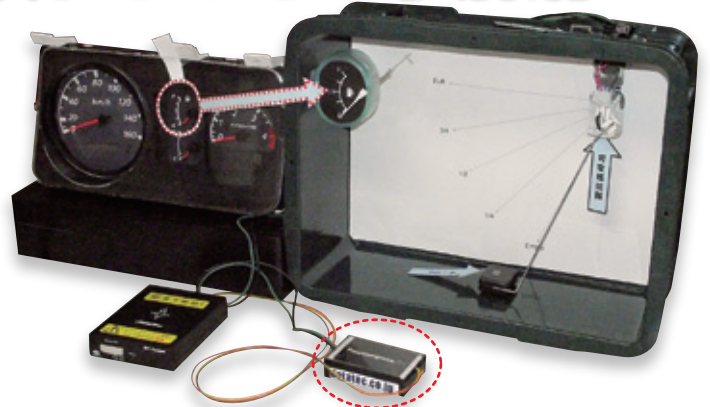
車両の燃料タンク部には、「燃料レベルゲージユニット」があり、その先端に「フロート」が装着される。燃料の増減によってタンク内でフロートが浮き沈みすることで、燃料メーターの針を動かす仕組みだ。データ・テックはFuelCompassの開発にあたり、日本通運株式会社や大手運送会社の協力を得て、大・中・小型トラックやワンボックスカー(ワゴン、バン)などの車両を使い、実証試験を実施。その結果、FuelCompassで計測したデータと、満タン法の燃費が同値という結果になった。

- 温度計測や映像記録との連携など
- SRシリーズがますます便利に

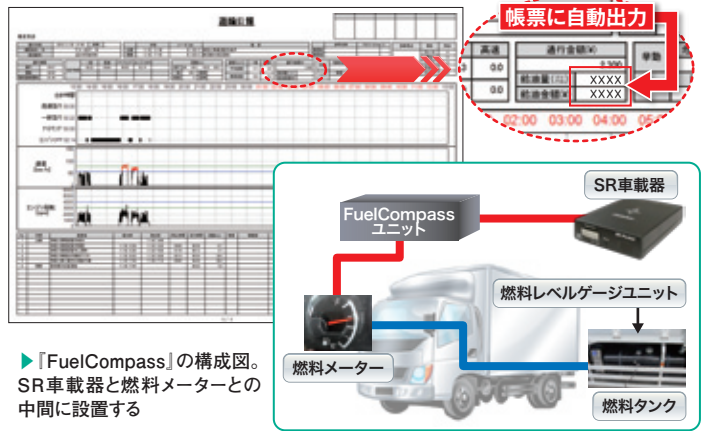
今回発表したFuelCompassは燃料情報を記録するためのものであり、引き続き、SRシリーズと組み合わせて運用することで、高い輸送品質を提供できる。

展示コーナーではFuelCompassユニットをはじめ、SRシリーズと温度計測や常時映像記録(DVR-Pro)の連携も紹介した。

■ 問い合わせ先 ■ TEL 03-5703-7060



▲ SRお客様交流会のデータ・テックブースにて展示された『FuelCompass』。赤丸で囲まれた装置が、FuelCompassユニットだ



▶ 『FuelCompass』の構成図。SR車載器と燃料メーターとの中間に設置する

給油回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	合計
給油量(L)	366	370	380	383	336	360	2195
算出消費量(L)	355.9	384.0	388.7	393.2	324.0	349.1	1839
走行距離(km)	-	1175	1169	1224	1175	1112	5855
走行燃費(km/L)	-	3.1	3.0	3.1	3.7	3.2	3.2

(満タン法) ODO値との比較: 70201Km/2195L=3.2Km/L

給油回数	1回目	2回目	合計
給油量(L)	156	145	301
算出消費量(L)	99.8	138.2	238.0
走行距離(km)	369	592	961
走行燃費(km/L)	3.7	4.3	4.0

(満タン法) ODO値との比較: 1218Km/301L=4.0Km/L

▲ 上が大型トラック、左が中型トラックによる燃料容量変化。給油前後の燃料情報と実際の給油量から割り出した係数を用いて算出した

TOPICS

ドコモ・システムズと業務提携 SRがクラウド化しFOMAやスマホ連携も!!

2月14日、データ・テックはドコモ・システムズ株式会社と業務提携に合意し、同社のクラウド型位置情報サービス「docoですcar NEXT (以下NEXT)」と「SRによる安全運転サービス」を融合させ、安全運転を支援するクラウド型アプリケーション・サービスを提供することを発表。翌日のお客様交流会でもドコモ・システムズ株式会社より、両社の事業展開について説明が行われた。

NEXTは、GPSによる人と車の動態管理を行うもので、豊富な位置情報端末からFOMAネットワークを通じて、簡単に手軽にサービスを利用できる。さらにお客様ごとの個別システムに柔軟に対応できる拡張性を持ち、豊富な料金プランも用意。現在まで約800社1万1,000台の導入実績を誇る。両社の業務提携により、NEXTの位置情報と、SRの安全運転支援情報(運転挙動・運行記録・運行映像)

がWebクラウド上で統合し、関連するハード/ソフトの新製品や新サービスに展開する意向だ。両社は、その第1弾として『docoですcar

Safety』を4月より提供開始。これにより現状メモリカードでやりとりを行うSRデータをWebクラウドセンターへ集約し、インターネット環境があれば、いつでもどこでも閲覧可能になる。今後FOMAネットワークとの融合やスマートフォンとの連携機能強化なども視野に入れている。



登壇したドコモ・システムズ株式会社の吉田取締役 兼 エンタープライズソリューション事業部長

SR活用による最大効果を目指して 異業種間でグループディスカッション

SRお客様交流会恒例の分科会は、物流業界が注目する最新トピックにテーマを絞り、お客様同士が業種を超えて意見交換やディスカッションを行った。

■ ISO39001「道路交通安全マネジメント」を考える

- 交通事故による死傷者を減らす取り組みをすることで、経済的な損失を防ぎ、お客様から信頼を得ることができる。道路交通に関わりがあれば、車両がなくても取得は可能である
- ISO39001は、強いリーダーシップと継続的な改善活動をPDCAサイクルとして回すことが必要であり、評価のツールやヒヤリハット情報を吸い上げるうえでSRを使用する方法もある

■ 物流業界での生き残り術

- 業界での生き残りには、安全面の徹底が最優先事項(自社専用安全マップを活用)
- SRの活用は、管理者とドライバーとのコミュニケーションや指導を円滑でわかりやすくする(指導書などにコメント記入)

■ 安全管理との向き合い方 [1]

- 「車間距離を今までより1.5倍取ろう」「あと2秒遅らせて曲がろう」などSRデータに基づく具体的な指導を取り入れる
- 自社の看板を背負っているという誇りを持ってもらう

■ 安全管理との向き合い方 [2]

- 映像を残し、それを利用することで高い効果が得られる
- 危険挙動映像は、ドライバーとマンツーマン指導に活用
- 管理者まかせでなく、ドライバーもSRデータで自分の運転を振り返り、ドライバー同士で情報やノウハウを共有し合う
- マンネリ打破に報奨制度など社内での自発的な工夫が必要

■ 映像と運行データの上手な活用方法

- SRは、「①事故処理だけではなく事故防止にも活用」「②ヒヤリハット映像のKYTを社内で情報共有」「③運行データ(得点)と映像のリンク」が魅力
- SRグランプリを活用して、社内外を問わず異業種間で運転技術を競い合い、切磋琢磨することも大切

■ 燃費向上・コスト削減への仕組みづくり

- 「車間距離を十分に確保」「適切なエアコン操作」は重要ポイント
- アクセルワークは、オフの操作を丁寧かつ慎重に行う
- ドライバーの意識改革を図ることが必要不可欠

TOPICS



安全運転日本一を競う SRグランプリの 記念ステッカーが完成!!

全国のSR導入企業や営業所、ドライバーが参加し、安全運転を競い合うコンテスト「SRグランプリ」。その部門賞と個人賞を獲得した優秀企業・ドライバーに進呈される栄えある「SRグランプリ ゴールドステッカー」が完成した。



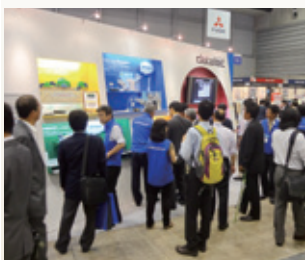
▲ ゴールドステッカーは、優秀企業や優秀ドライバーのみ手にできる。SRお客様交流会では、第1回SRグランプリの受賞者に手渡された

イベント情報

人とくるまのテクノロジー展2013 AUTOMOTIVE ENGINEERING EXPOSITION

データ・テックは、「人とくるまのテクノロジー展2013」に出展、同会場にてSRに関する講演会を実施いたします。弊社ブース、講演会ともに、ぜひご来場・ご参加ください。

会期：2013年5月22日(水)～24日(金)
場所：横浜国際会議場 (パシフィコ横浜)



▲ 昨年のデータ・テックブース。今年も新製品や新技術が目白押し

講演発表タイトル

さらなる進化を遂げる
セイフティレコーダ®
～安全運転を支援するクラウド型
アプリケーションサービス～

講演日：2013年5月22日(水)
16:15～16:45
会場：横浜国際会議場
アネックスホールF202

イベント情報

SR運用相談会&展示会

お客様フォローの一貫として全国各地にて展示相談会を実施中です。SR導入済みのお客様も、検討中のお客様も、SR製品や新技術に触れていただき、直接担当者にご質問やご相談ができます。

エリア	会場	4月	5月	6月
金 沢	石川県産業展示館	4/9(火) 11:00～15:00	—	—
名古屋	日本特殊陶業市民会館	4/10(水) 11:00～15:00	—	—
埼 玉	埼玉県トラック総合会館	4/12(金) 13:00～16:00	—	—
横 浜	産業貿易センター	4/18(木) 13:00～16:00	—	—
奈 良	エルトピア奈良	4/19(金) 11:00～15:00	—	—
大 分	大分県トラック会館	—	5/14(火) 13:00～15:00	—
神 戸	神戸センタープラザ	—	5/17(金) 11:00～15:00	—
仙 台	エル・パーク仙台	—	5/21(火) 11:00～15:00	—
三 重	三重県総合文化センター	—	—	6/14(金) 11:00～15:00
愛 知	愛知県トラック研修センター	—	—	6/19(水) 11:00～15:00

※都合により、日程・時間を
変更する場合があります

お問い合わせ先：TEL 03-5703-7060